

中国における小学校音楽教師資格試験問題の分析

許 于 蘭

(本講座大学院博士課程前期在学)

Analysis of Music Teacher Certification Examinations in Primary Schools in China

Yulan XU

Abstract

After the founding of the People's Republic of China in 1949, there were no relevant institutions or laws regarding teachers' qualifications, until recently. In 2000, certification examinations of teachers began to be introduced and implemented nationwide in China. However, due to a range of problems, such as implementation in different regions, limitations of examination forms and the objectives of examinations, a reform of teacher's certification examinations was carried out by the Ministry of Education of the People's Republic of China in 2011. The standards and contents of the examination are set by the state. In addition, all applicants who wish to become teachers, including normal university students, non-normal university students, and social people can undertake a certification examination. The current study focused on the certification examination of music teachers, which was implemented after 2015. We discuss the specific process of the certification examination as well as analyzing and summarizing the contents, characteristics and trends of relevant music examinations in primary schools. Analysis of the relevant examinations of the content of music classes in primary schools indicated that certification examinations for primary school teachers focus more on the music teacher's teaching plan and the concept and goal of the music curriculum standard, as well as the ability to master basic music pedagogy and apply education methods, while knowledge related to musicology does not receive sufficient attention. Regarding the content and music skills of primary school music teachers, there are several areas for improvement at the examination stage.

1. 研究の背景と目的

中国における教師資格試験は、広く一般社会に人材を求め、教師として必要な資質・能力を有すると認められた者に教師への道を開くための試験である。教師資格試験は教師の資質に関する「基準・スタンダード (standards)」に大きな影響を与えている。しかし、中国では 1949 年に新中国が成立して以来、教師に関わる資格制度と関連する法律の規定がなかったため、教師資格試験の実施条件も整えられていなかった。その後、2000 年 9 月、中国教育部¹⁾が「教師資格試験条例 (実施方法)」(教育部 2000 年 10 号)を制定し、初めての教師資格試験が全国で実施された。この教師資格試験の実施は教師の資質向上に有効であると考えられた。しかし、教師資格試験の形式、基準及び内容は各地域によって異なるため、国レベルでの教師の資質に関する基準が明確でないことが指摘されていた。また、試験対象は非師範系学生²⁾あるいは社会人の申請者であったため、試験の対象となっていない師範系学生の資質・能力を見直すことを検討しなければならなかった(張 2011)。このような現状を改善するために、中国教育部は 2011 年に「幼稚園と小中学校教師資格試験の改革試行の展開に関する指導意見」(教師函 2011 年 6 号)を公布した。これによって、一部の省から順次実施され、2015 年には全国統一的な教師資格試験が展開されることとなった。試験の形式、基準及び内容などは国が制定することとなった。また、教師になるためには、師範系

大学であってもすべての者が教師資格試験に参加しなければならなくなった。

本稿では、2011年以降実施されている小学校の音楽教師資格試験を整理・分析し、その特徴を明らかにすることを目的とする。これをとおして、国が求める音楽教師像を描出したい。なお、分析対象とする試験は2015年後半から2018年前半である。

2. 2015年以降の小・中学校教師資格試験の展開

2.1 新しい教師資格試験導入の意義

新しい教師資格試験は「幼稚園と小中学校教師資格試験の改革試行の展開に関する指導意見」（教師函2011年6号）に基づく。これは、幼稚園と小・中学校教師資格試験の改革を試験的に展開し、教師の就職準入制度³⁾を完備するための重要な内容を含む。教師チーム全体の素質を向上させ、教師の社会的地位を高め、優秀な人材を育成し、教育改革の発展を実現化するために、次のような重要な意味がある。まず、教師資格試験の改革を通じて、試験の内容を改善し、職業道徳、授業能力と教師の専門性の発展を強化することである。次に、新任教師の募集制度の改革を伴って、教師の就職制度改革を形成することである。さらに、国家が試験の基準を設定し、省の教育行政機関が試験を行い、県レベルの行政機関が教師の募集・採用を担当し、学校が新任教師を任用するという管理制度を形成することである。

2.2 教師資格試験の種類と筆記試験における合格基準

2015年以降、中国教育部によって統一された教師資格試験は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等職業学校⁴⁾の5つのレベルに分類されている。

もともと筆記試験の合格基準は、毎年の試験の実施状況や各科目の難易度に基づいて合格点が決定されていた。しかし2015年以降は、受験生に合格基準に関する概念を認識させやすくするために筆記試験における各科目の合格点を統一することとなった。150点の試験満点は線型代数学の計算方法をとおして、120点の満点へ変換され、各科目の合格点は70点に固定されている。

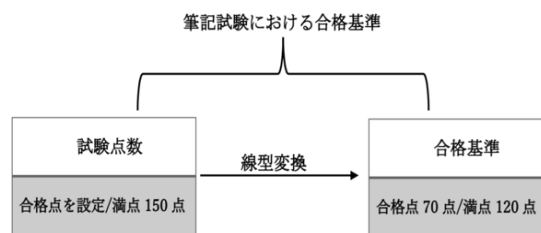


図1 筆記試験における合格基準

2.3 教師資格試験のスケジュール

2018年の時点で、全国で28の省レベルの地域においてのみ統一的な教師資格試験が展開されており、チベット自治区、新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区は実施されていない。試験は基本的に年間2回行われるが、一部の地域では年間1回しか行われていない。表1に各省レベルの地域の教師資格試験スケジュールをまとめた。筆記試験の時期は基本的に3月と11月で、面接の時期は5月と1月である。

表1 教師資格試験のスケジュール

試験項目	筆記試験	面接	筆記試験	面接
実施時期	3月	5月	11月	1月
実施回数(1回)			山西, 江蘇, 湖南, 河南 雲南, 四川, 青海	
実施回数(2回)	北京, 天津, 山東, 陝西, 河北, 湖南, 湖北, 浙江, 福建, 福建, 海南, 吉林, 貴州, 広東, 広西, 安徽, 甘肅, 遼寧, 江西, 重慶, 寧夏, 黒竜江省			

2.4 音楽教師資格試験の枠組

教師資格試験の筆記試験は、科目一、科目二、科目三の3領域からなる。科目一の主な内容は、教師に

なるために必要となる教育理念、法律の知識、科学・文化素養、読解、言語表現などである。科目二の主な内容は、教育学の知識、児童・生徒指導、学級管理、授業の設計、授業の実施、授業の評価などである⁵⁾。小学校の場合はここに音楽科の知識を含む。科目三の主な内容は、音楽科に関する知識である。

表 2 音楽教師資格試験の枠組

	筆記試験			面接
	科目一	科目二	科目三	
小学校	総合素質	教育学・音楽科の知識と能力	なし	授業の実践力
中学校	総合素質	教育学の知識と能力	音楽科の知識と能力	授業の実践力
高等学校	総合素質	教育学の知識と能力	音楽科の知識と能力	授業の実践力

3. 小学校における音楽教師資格試験の内容分析

3.1 教育学・音楽科の知識と能力（科目二）の問題構成

小学校における音楽教師資格試験は科目一、科目二、及び面接である。科目二の試験問題形式の構成は基本的に固定されており、選択式問題と記述式問題の大きく2つの種類に分かれている。選択式問題では教育学の基礎知識、児童の指導、クラスの管理、授業の実施、授業の評価と反省などの内容が出題されている。また、記述式問題では、「教育学に関する知識」「教育方法・授業実践例に関する知識」「音楽科に関する知識」の3つの領域が出題されている。試験時間は120分、満点は150点である。具体的な出題数、各領域の配点を表3に示す。

表 3 科目二の試験問題の構成

試験の形式		出題数	配点	合計（点）
選択式問題		20	40	150
記述式問題	教育学に関する知識	3	30	
	教育方法・授業実践例に関する知識	2	40	
	音楽科に関する知識	1	40	

3.2 教育学・音楽科の知識と能力（科目二）の記述式問題の特徴・傾向

A) 教育学に関する知識

主に教育学の基礎知識、教師の専門性の発展、心理学の基礎知識、児童の心身の発達、クラス管理などの内容が出題されている。また、中国教育部が制定した「小学校教師專業標準（試行）」で規定されている小学校教師に求められる教師像と力量について説明するような内容が含まれている。図2に、過去に出題された問題の一部を例示する。

二、記述問題（以下の3つの問題に答えなさい、一問の点数は10点である）

22. ハワード・ガードナーの多重知性理論について述べなさい。
23. 主観能動性は個人の発展の中でどのように作用するか述べなさい。
24. クラスの担任は生徒をどのように理解し、それをどのように深めたらよいか述べなさい。

* 中国における主観能動性とは、人間の主観的意識と活動の客観世界に対する反作用であり、人間の主観的意識をとおして、能動的に世界を認識することを意味する。また、subjective activityあるいはsubjective initiativeと英訳される場合もある。

図 2 「教育学に関する知識」の過去問（2017年前半）

B) 教育方法・授業実践に関する知識

この問題領域では、学校内または授業中に生じる突発的なできごとや児童の行動への対処法について具体的に説明したり、授業の過程、原則、手段や方法、基本的な環境について説明したり、教師の教授行為、(授業の導入の仕方、質問・発問、コミュニケーションなど)の評価について説明したりする。図3に、過去に出題された問題の一部を例示する。

25. 記述式問題

肖先生はある小学校の5年生の数学の先生であり、生徒の宿題に対する評価方法を改善するために生徒に質問した。「皆さん、どんな色で自分の宿題を評価するのが好きですか。赤は焰や熱情を代表することができます、青いは海、平和を代表することができます、緑は希望、生命を代表することができます…」

「私たちは緑が好きです。先生は緑で宿題を評価してほしいです、また、私たちは『×』は好きじゃないです。『?』と『ことば』で評価してほしいです。」生徒は以上のように答えた。その後、肖先生は緑色ペンで生徒の宿題を評価しはじめた。このような評価方法は生徒に激励の作用を起し、生徒は肖先生から評価された宿題が気になって、学習の成績も向上しました。

①肖先生の生徒に対する宿題の評価方法について分析しなさい。

②教師として、生徒に対する宿題の評価の基本的な要求について説明しなさい。

図3 「教育方法・授業実践例に関する知識」の過去問(2016年後半)

C) 音楽科に関する知識

この問題領域では、問題設定は基本的に固定されている。具体的に、①曲の特徴の理解、②授業目標の設定、③指導案の作成、の3つの内容からなる。点数の割合について、①と②はそれぞれ25%を占め、③は50%を占める。試験の範囲は、音楽科の基礎知識と「義務教育における音楽課程標準(2011年)」の内容と特徴である。図4に、過去に出題された問題の一部を例示する。

中国教育部が制定した「義務教育における音楽課程標準(2011年)」では、「感受と鑑賞」「表現」「創作」「音楽と関連する文化」の4つの学習領域が示されている。しかし、表4に示したように、実際に出題されているのは「表現」と「創作」に限定され、「感受と鑑賞」と「音楽と関連する文化」に関する内容は取り扱われていなかった。また、「表現」領域は出題傾向の偏りが多く見られた。このような現状から、小学校における音楽科に関する知識の出題傾向を分散していくことと「義務教育における音楽課程標準(2011年)」の内容を偏りなく出題していくことが課題となる。

表4 「音楽科に関する知識」の出題一覧

実施時期		試験問題	学習領域	試験内容
2015	後半	《乃哟乃》	表現	・曲の特徴の理解 ・授業目標の設定 ・指導案の作成
2016	前半	《大鼓和小鼓》	創作	
	後半	《小青蛙找家》	表現	
2017	前半	《两只老虎》	表現	
	後半	《飞飞曲》	表現	
2018	前半	《火車开啦》	表現	

「義務教育における音楽課程標準(2011年)」では、小学校の6年間は2つの段階に分けられる。第1段階は1年生から2年生まで、第2段階は3年生から6年生までである。1年生から2年生の段階では、音楽の授業を実施する際に、児童のイメージや考えを中心として、好奇心や模倣力が強いなどの特徴に十分に注意し、唱歌、舞踊、音楽遊戯などの総合的な教育方法を用いて、直観教育を行うことが望まれる。図4の過去問では、低学年の児童を対象として、授業展開を計画することが求められている。3年生から6年

生の段階では、体験や探索をとおして音楽活動能力や音楽に対する全体的な感受性を高め、合唱、楽器演奏、音楽創造活動などの教育方法を行うことが望まれる。小学校の音楽教師はそれぞれの段階の子どもの発達の理解を重視しなければならない。しかし、音楽と他教科の過去問を比較すると、音楽科では中・高学年を対象とした問題は見られず、低学年の児童を対象とした問題に限定されていた（表5）。このような現状から、出題対象を特定の学年に集中させず、子どもの発達段階を包括的に扱っていくことが課題となる。

飞飞曲

黎锦晖/词曲

do

(小雀) 飞 飞 飞 飞 飞 飞 这个样子 飞 飞 飞 飞 飞 飞 这个样子

飞 飞 飞 飞 慢慢 飞。 这边 飞来, 那边 飞去, 飞 飞。

(老雀) 要 上去 就要 把头 抬。 要 转弯 尾巴 摆 一 摆, 要 下来

斜 着 飞 下 来, 照 这 样 子 飞 到 这 里 来! (小雀) 来!

「義務教育音楽課程標準（2011）」の基本理念に基づいて、指導案を書きなさい。

①歌曲の特徴を分析しなさい。(10点)

②低学年児童を授業対象として、授業の目標を書きなさい。(10点)

③授業目標に基づいて、具体的な授業過程を書きなさい。(10点)

図4 「音楽科に関する知識」の過去問（2017年後半）

表5 教科に関する知識の試験問題の授業対象

教科	2015 後半	2016 前半	2016 後半	2017 前半	2017 後半	2018 前半
国語と社会	中	低	中	低	中	低
数学と科学	中	中	中	低	高	高
音楽	低	低	低	低	低	低
美術	低	低	低	中	中	中

*低とは低学年（1-2学年）、中とは中学年（3-4学年）、高とは高学年（5-6学年）である。英語と体育は除く。

3.3 音楽科の面接の評価基準

面接は、小・中学校教師資格試験の構成部分であり、試験官がつけた得点は最終的に合否で評価される。国語、英語、社会、数学、科学、音楽、体育、美術の8教科に分けて行う⁶⁾。また、中国教育部は2017年に「小・中学校教師資格試験における心理健康教育などの試験科目の増加に関する通知」（教師函 2017年41号）に基づいて、小学校の面接に心理健康教育、情報技術、小学校全科の3科目を増設した。これらの内容は各地域によって異なる。また、面接の形式は基本的に試験題目を抽選した後、授業準備、規定問題の解答、模擬授業、質疑応答という順に進められる。

面接の評価基準は、職業認知、心理的な素質、身だしなみ、言語表現、思考の品質、授業設計、授業の実施、教育評価、の8つの観点であり、その中で授業の実施が最も重要である。子どもの認知の特徴をとらえた上で、適切な教育方法を選択して、必要な教具と現代的な教育補助技術を用いて、わかりやすい板書をしながら授業を行う実践力が重視されている。

3.4 音楽科の面接の部分内容・特徴

面接の問題は公表されない。しかし、教師資格試験のための資格スクールを通じて入手した問題の一部を図5-1、5-2、5-3に示す。図5-1の歌唱領域では、範唱と伴奏が要求されており、小学校音楽教師の最も基本的な音楽技能としてとらえられていることがわかる。子どもに適切に指導案の作成計画が立案できることなどの基本的なレベルの能力が要求されていた。図5-2の鑑賞領域では、児童が主体的、能動的に取り組むことができる授業が要求されていた。また、図5-3の音楽と関連する文化の領域では、生徒に音楽に合わせて舞踊表現する楽しさを味わわせて、少数民族の音楽文化の動態を文化的な脈絡の中でとらえるなど、ウイグル族の音楽文化を教材内容としている。音楽教師は中国全土に存在する多様な音楽文化を理解した上で、生徒が体験的に学習できる方法を援用することが重視されていた。

我们的田野

1=F 2/4
中速、宽广、优美地

范 琳 编
张又刚 曲

0 3 5 3 | 0 5 | 5 0 5 | 3 5

我们的田野，美丽极了。
平静的湖中，开满了荷花。
风吹着森林，发出沙沙的响声。
森林的后面，有茂密的庄稼。

1 3 2 | 0 5 | 1 2 | 3 5 | 3 5

田野，碧绿的河水，流过荷花。
翠绿的柳树，守护着庄稼。
翠绿的森林，守护着庄稼。
翠绿的森林，守护着庄稼。

0 0 0 | 5 3 | 2 0 | 2 0 3 2

无边无际的田野，无边无际的田野。
无边无际的田野，无边无际的田野。
无边无际的田野，无边无际的田野。
无边无际的田野，无边无际的田野。

基本要求

①教師による範唱と伴奏。
②板書しながら授業を進めること。

質疑応答

①音楽教師は範唱表現をどのように工夫したらよいか。
②授業の中で「審美を中心とする」基本理念をどのように実践していくのか。

図5-1 面接の過去問 歌唱領域の例
(2017年後半山東省地域)

次の琵琶協奏曲は、モンゴル族の子どもたちが嵐の中で必死に羊の群れを守ることを題材にしたものである。「草原放牧」は、この作品の第一楽章である。

草原放牧
——选自《选自草原小姐妹》
琵琶协奏曲

1=G 2/4
欢快、活泼地

6 6 6 2 2 | 3 3 6 2 2 | 1 1 2 3 6 | 2 3 2 0

1 1 2 3 6 | 2 1 6 6 | 5 5 3 2 3 5 | 3 - | ……

1=D 4/4
抒情地

i - - 2356 | i - - 1 2 3 5 | 5 - 5 0 i 6 0 i | 5 - - 5 | ……

基本要求

①授業の中で、児童が主体的に探究する場を設定しなさい。
②教師と生徒の相互コミュニケーションをとおした授業を行うこと。

質疑応答

どのような授業方法を用いて音楽鑑賞の授業を進めていくのか。

図5-2 面接の過去問 鑑賞領域の例
(2018年前半福建省地域)

娃哈哈

维吾尔族民歌
石夫 编词曲

中速、稍快

我们的祖国是花园，花园的花朵真鲜艳，和暖的阳光照耀着我们，每个人脸上都笑开颜，娃哈哈！

娃哈哈！每个人脸上都笑开颜。

基本要求

①教師による伴奏すること。
②ウイグル族の舞踊の指導を取り入れて授業を進めていく。

質疑応答

①オルフ音楽教育の基本理念と影響について述べなさい。
②授業の雰囲気はどのように工夫したらよいか。

図5-3 面接の過去問 音楽と関連する文化領域の例
(2016年前半福建省地域)

4. 小学校音楽教師資格試験にみる音楽教師像

上述したように、小学校音楽教師資格試験（科目二）の内容からは、教育学の基礎知識、児童の指導などの内容が重視されていた。音楽科に関する知識領域の内容は、①曲の特徴の理解、②授業目標の設定、③指導案の作成、の3つからなる。①「曲の特徴の理解」には音楽の基礎知識や曲の分析などが含まれているが、音楽学に関する分野の知識はあまり重視されていなかった。その一方、授業目標の設定と指導案の作成が重視されていた。また、面接では子どもの発達段階による興味・関心を引き出せる授業力が求められていた。このように、音楽科の授業を主として担当するものの、基本的な教育理論、子どもと教師の発展、小学校の組織と運営などの能力を持ち、子どもの全面発達を促進する人材、すなわち、小学校で教育・授業・管理などをオールマイティに担当できる応用型人材が求められていると言ってよい。

5. おわりに

教師資格試験の内容は教師資格試験の重要な構成部分であり、教師資格試験が有効に実施できるかどうかの決定的な要素である。本稿では、2015年以降実施されている小学校の教師資格試験に焦点をあて、音楽科における現状を整理・分析した。小学校では、教科に関しては音楽に関する基礎知識をもっていることや、適切に指導計画が立案できることなどの基本的なレベルの能力が要求されていた。また同時に、教育理論や子どもの発達の知識、学校組織における運営能力などが要求されており、子どもの全面発達を支援する総合型の教師像が浮かび上がった。

小学校の試験問題の特徴やそこから浮かび上がる教師像から分かるように、教師資格試験は教師の資質に関する基準に大きな影響を与えている。したがって、教師の資質向上を実現するためには、教師資格試験の内容が教育現場で本当に求められる教師の資質を適切に測るものになっていなければならない。中国が抱える教育課題を克服し、教師を志す者がそのために真に必要な知識・技能を獲得するには、現在の教師資格試験さらなる改良の余地があると考えられる。

注

- 1) 中国教育部とは、中華人民共和国国務院に属する行政部門で、教育、言語、文字事業を管轄する。日本の旧文部省（現文部科学省）にあたる役所。
- 2) 師範系とは教員養成を主目的とする地方公立普通高等教育機関であり、修業年限4年の学部のレベルの課程を設置し、学士号を授与する。非師範系とはこれ以外の教育機関である。
- 3) 就業準入制度とは特定の職種に対して実施される制度で、国家の関係規定に従い、技術が高度で、汎用性が高く、国家財産、生産安全および消費者の利益に関わる職業に従事する労働者は、就職前に教育訓練を受け、職業資格証書を取得しなければならない（独立行政法人 労働政策研究・研修機構ウェブサイトより）。
- 4) 中等職業学校とは、職業教育を行う「中等専門学校」「技術労働者学校」「職業中学」などを指す。
- 5) 教師資格試験における科目一と科目二の内容は、高（2017）p.19を参照のこと。
- 6) 従来の教育に関する法律の中に記載していない小学校教員の授業担当については、教師資格試験が実施されて以来、8教科を分けて行うことが明示された。また、資格証明書への担当教科登録については、原則として面接試験に選んだ教科と一致することが規定された。高（2017）p.34を参照のこと。

引用文献

- 張惠婷（2011）「中国における教師資格制度の発展と課題についての考察」『教育経営学研究紀要』第14号、pp.83-86
- 高慧珠（2017）「中国の大学における小学校教員養成カリキュラムに関する研究」広島大学博士学位請求論文

教師資格試驗問題

中公教育教師資格考試院（2018）『國家教師資格考試・教育學知識與能力（小學校）』世界圖書出版社